

# 体験！発見！ジオパーク(防災学習編)

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

### ○ 実施期間

令和元年9月21日(土)～令和元年9月23日(月) 2泊3日

### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 27名/30名

### ○ 活動プログラム

9/21(土)	9/22(日)	9/23(月)
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床・洗面	6:00 起床・洗面・清掃
12:00 ジオパークセンター着	6:30 災害時に役立つアウトドアクッキングⅠ (カートンドッグ)	7:00 朝食(食堂)
12:10 昼食	9:00 非常時に食べられる野草の種類と食べ方学習 講師：牧野植物園職員	9:00 学習のまとめ
12:45 開講式	12:00 災害時に役立つアウトドアクッキングⅡ (野草・インスタントラーメン)	11:00 成果発表
12:40 ジオパークセンター見学	13:00 ロープワーク 災害時用テント作り	12:00 昼食(食堂)
14:00 起震車体験	15:00 防災時に役立つアウトドアクッキングⅢ (カレー、ハイゼックス)	13:00 閉講式
15:00 南海トラフ地震学習 講師：中村専門員	19:30 入浴	13:30 自然の家発
16:00 自然の家へ移動	20:00 振り返り	16:00 はりまや橋観光バスターミナル着
17:00 防災食試食体験 (マジックライス)	21:00 就寝 (防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験)	
20:00 振り返り		
21:00 就寝 (防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験)		



## 2. 活動の様子

### <1日目>

参加した子供たちに開講式の時、「今回の防災学習は、非常時の衣食住を考えて生活をしてほしい。」と伝えてスタートした。開講式後、室戸世界ジオパークセンターの見学を行った。子供たちは、防災学習ということもあって、南海トラフ地震に関係する展示物を見学していた。見学後、室戸世界ジオパークセンターの駐車場で起震車体験を行った。参加したほとんどの子供たちは、学校での防災学習で起震車体験をしていたが、改めて地震の揺れの恐ろしさを体験することができた。起震車体験後、室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の中村有吾氏に南海トラフ地震の話をしていただいた。地震の起こる仕組みを学んだ。南海トラフ地震が起こると室戸市は2m隆起し高知市は

1.5m地盤沈下することを聞いてびっくりしていた。地震は場所によって被害が違うことを学んだ。自然の家に帰り夕食の準備を行った。夕食は、防災食（マジックライス五目飯）の試食体験を行った。かまどに薪で火おこしをし、鍋でお湯を沸かした。班で協力をしておいしそうに食べている姿がたくさん見られた。夜は、防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験を行った。就寝する前に濡れタオルで体を拭き、レスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。



### <2日目>

6時に起床し野外炊事場へ移動して朝食の準備を行った。食材が届くとカートンドック作りに取り掛かった。子供たちは、アルミホイルで包んだパンを牛乳パックに入れ、それを燃やすと簡単にホットドックができることに驚いていた。ホットドックが焦げてしまった子供もいたが、「焦げ目も美味しいよ。」と友達と話しながら楽しく食べていた。朝食後は本館へ移動し、食べられる野草の種類と食べ方を学習した。高知県立牧野植物園職員の稲垣典年氏に野草のお話をいただいた。子供たちは、野山には食べられる野草がたくさんあることを知った。昼食では、実際にミツバ、ツユクサ、オオバコ、キツネノマゴを湯がき食べてみた。子供たちからは、「思っていたよりも美味しい。」という声が上がっていた。午後からの活動は、ロープワークとカレーライス作りを行った。ロープワークでは、事前に防災に役立つロープの結び方を学び、ブルーシートと竹を利用して、みんなが宿泊できるテントを作った。子供たちは、どういうテントを作ればいいのかみんな意見を出し合いテント作りに取り掛かった。自主的にアドバイスや指示をする子供、友達に結び方を教えてあげる子供など、防災生活で大切な助け合う姿や協力し合う姿がたくさん見られた。カレーライス作りでは、ハイゼックスと食料保存袋を使用する調理体験を行った。普段家庭でカレー作りを手伝っている子供もいたが、調理時間がすごくかかったので防災時の調理の大変さを感じる機会となった。夜は1日目と同じくレスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。



### <3日目>

最終日は、2日間の防災生活を振り返り、学習の成果を班ごとにまとめた。防災生活を衣食住に分けて模造紙に書いていた。2日間の生活の中で、衣服に関しては、災害はいつ発生するか分からないので就寝の時もすぐに避難できる衣服を着用させた。食事に関しては、生きるために食べると

ということから非常食として野草のことを理解し野草を食べる体験をした。住居に関しては、インフラ（電気・水）が滞る中で工夫した生活を行うようにした。そのことを4つの班がまとめて模造紙に書いていた。その後、班ごとに成果を発表した。発表の中で子供たちは、「防災生活はとても大変だなあ。」「防災食も美味しかったけど、3日目の食堂のご飯はもっとおいしかった。食べ物を大切にしなければいけないなあ。」と感想を述べていた。各班でまとめた模造紙は、室戸世界ジオパークセンターに展示していただく予定である。今回の事業を通して、今後発生するとされている南海トラフ地震に向けて自分なりの対策や準備をいってほしいと願っている。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・防災学習編は、テントを作ったり、ごはんを作ったりしました。本当に災害が起こった時に役立てたいと思いました。普段と違う生活で疲れました。けれど、これからの生活に活かしていきたいです。
- ・初めて起震車に乗りました。震度7は体が5cmぐらい浮きました。怖かったです。
- ・起震車体験は、身動きがとれないほど揺れて怖かった。いろんなことが学べた。
- ・レスキューシートは、うるさくて眠れなかったです。
- ・みんなと協力していろんなことを学べてよかったです。
- ・防災学習をして、物の大切さや協力の大切さを知りました。
- ・一番思い出に残ったのは、みんなと協力して作ったカレーライスです。煙で目も痛かったし、非常炊飯袋で作るのは工夫が必要でした。でも、みんなで作ったカレーライスは美味しかったです。
- ・電気が使えないのは苦労したけど、懐中電灯2つで、みんなで協力できたのはとてもうれしかったです。
- ・野草を食べただけで意外と美味しかった。
- ・道路とか身近に生えている草が食べられることが分かっておどろいた。

#### ○ 事業の成果

- ・起震車による震度体験を通して、実際に地震が起きた時にどういう行動をとればよいか等を考えるきっかけとなった。
- ・高知県立牧野植物園職員の稲垣典年氏に野草についての話をしていただき、様々な野草についての理解ができた。また、実際に野草を食べる活動を通して、災害時を生き抜くための身近な食べ物、食べることの楽しさや食べ物の大切さについて理解することができた。
- ・防災研修棟でライフライン（電気・水）が遮断された生活体験を行い、日ごろから防災に備えることが重要であることを考えることができた。また、防災生活では一人よりもみんなで協力することの大切さや素晴らしさを感じることもできた。

○ 事業の課題

- ・ 今回の事業は、衣食住にテーマを置いて活動を行った。食については、子供たちにサバイバル感を味わわせようと思い、かまを自分たちで作ったり、食べられる野草を自分たちで採取して調理したりする活動を通して「生きる抜く力」を身に付けさせようと考えていたが台風の影響でできなかった。荒天時は危険が伴うため代替プログラムをどうするかが課題である。